

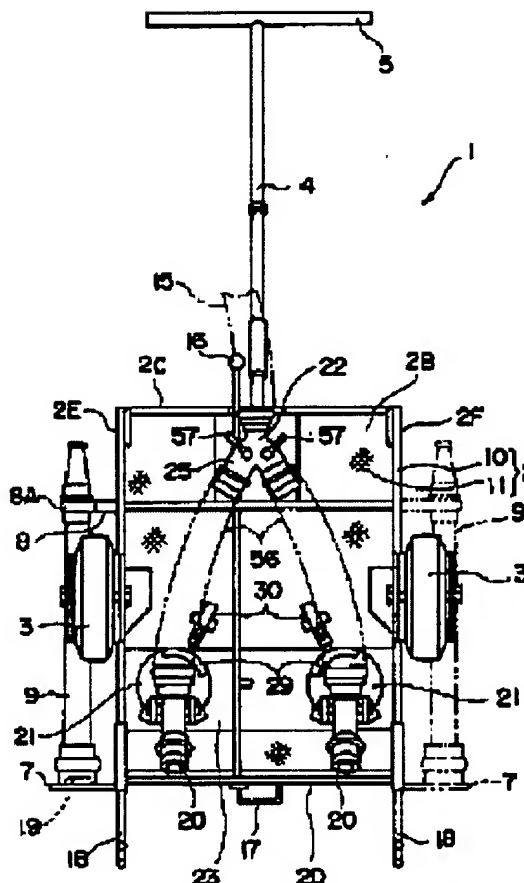
HOSE CAR FOR FIRE FIGHTING

Patent number: JP9220294
Publication date: 1997-08-26
Inventor: FUJITA SHIGEMI; ISHIDA HIDEMASA
Applicant: IDEMITSU KOSAN CO LTD
Classification:
 - international: A62C27/00; A62C27/00
 - european:
Application number: JP19960029066 19960216
Priority number(s):

Abstract of JP9220294

PROBLEM TO BE SOLVED: To flexibly deal with a water hosing target by providing a rotating angle control means for controlling the rotating angle of a rotator to be rotated through a vertical rotating shaft toward a main body, to which a wheel for traveling is fitted, and an oscillating angle control means for controlling the oscillating angle of a water hosing gun seat at the rotator.

SOLUTION: When a fire is generated and a hose car 1 for fire fighting is moved to near the site, a hose 15 for fire fighting is successively drawn out of a main body 2 of the hose car 1. After the hose 15 is moved to any prescribed position, the upper face of the hose car 1 is grounded, next, two fire fighting nozzles 9 are detached from a side face 2F of the main body and respectively connected to a water housing gun seats 20, and the other ends of the hoses 15 are connected to a distributor 22. Then, the positioning stopper of a rotating angle control means 30 is pulled out of an angle positioning part 29 on a turn table 21 and the main body of the table is turned so as to confront water hosing ports with the target position. Besides, the water hosing gun seats 20 and the positioning pins of the oscillating angle control means are disengaged and the vertical angles of nozzles 9 are decided.



Data supplied from the esp@cenet database - Worldwide

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-220294

(43)公開日 平成9年(1997)8月26日

(51)Int.Cl. ⁴	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 2 C 27/00	5 0 8		A 6 2 C 27/00	5 0 8
	5 0 5			5 0 5

審査請求 未請求 請求項の数2 O L (全 9 頁)

(21)出願番号 特願平8-29066

(22)出願日 平成8年(1996)2月16日

(71)出願人 000183646

出光興産株式会社

東京都千代田区丸の内3丁目1番1号

(72)発明者 藤田 繁美

山口県徳山市新宮町1番1号 出光興産株式会社内

(72)発明者 石田 秀正

山口県徳山市新宮町1番1号 出光興産株式会社内

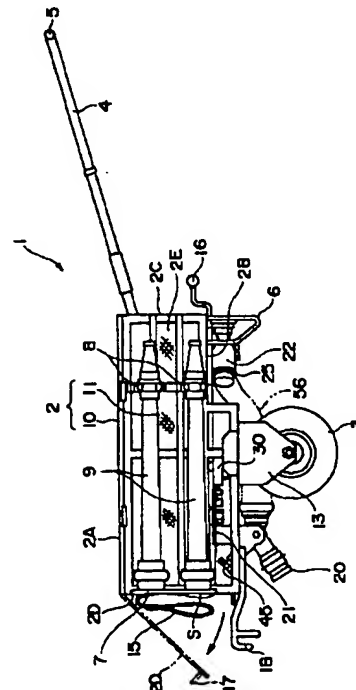
(74)代理人 弁理士 木下 實三 (外2名)

(54)【発明の名称】 消火用ホースカー

(57)【要約】

【課題】 コンパクト化され、消防車に多数備え付けることができるとともに、短時間で消火作業に移れ、かつ、放水目標に対して柔軟に対応できる消火用ホースカーを提供する。

【解決手段】 消火用ホースカー1の本体2の下面2Bに2つの放水銃座20を設け、本体2の第4の側面2Fに、放水銃座20と接続する2本の消火ノズル9を着脱可能に取り付け、また、本体2の内部に消火用ホース15を収納可能とする。放水銃座20は、水平面内および上下方向に角度調整可能となっている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】放水用の消火ノズルを備えるとともに消火栓に消火用ホースを介して接続され、前記消火栓から供給される消火用水で消火を行う消火用ホースカーであって、内部が前記消火用ホースを収納する収納空間となった本体と、この本体に取り付けられる走行用の車輪と、前記本体に設けられこの本体に対して垂直な回転軸を介して回転可能となった回転体と、この回転体に前記回転軸と直交する支持軸を介して揺動可能に設けられ、一端は前記消火用ホースに接続手段を介して接続されるとともに、他端は前記消火ノズルと接続される放水銃座と、前記本体に設けられ前記回転体の回転角度を調整する回転角度調整手段と、前記回転体に設けられ前記放水銃座の揺動角度を調整する揺動角度調整手段とを備えて構成されていることを特徴とする消火用ホースカー。

【請求項2】請求項1に記載の消火用ホースカーにおいて、前記銃座本体および消火用ノズルはそれぞれ2本ずつ設けられ、前記接続手段は、前記消火用ホースからの消火用水を前記銃座本体に分配する分配器を含んで構成されていることを特徴とする消火用ホースカー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、例えば屋外の消火栓から給水される消防車に接続して消火作業に利用される消火用ホースカーに関する。

【0002】

【背景技術】一般に、火災発生に際しては消防車が出動し、この消防車に火災発生現場に最も近い消火栓から給水を行い、消防員が消防車から火災発生現場まで消火用ホースを延ばして放水する消火活動、または、泡の噴射による消火活動が行われている。特に、石油コンビナート等においては、主要道路沿いにはほぼ70メートル間隔に消火栓が設置されており、消火にあたっては火災発生現場に最も近い消火栓が使用されている。この際、消火用ホースを延ばして放水する方法として、運搬車等による移動式のものが知られている。

【0003】この運搬車等による移動式の方法では、消火用ホースが収納された収納箱と、消火ノズルと、放水銃座を支持する銃座支持板等とを、それぞれ車輪付の固定枠に連結させた運搬車に載せ、それぞれを所定の場所に運搬している。この際、ホースは、一端を消火栓に接続しておいて他端を引っ張っている。そして、消防員はホース延長後、ホースと消火ノズルとを接続し、これらを放水銃座に固定して消火作業を行っている。また、このような運搬車等による移動式のものでは、消火ノズルを取り付けた後、このノズルを上下方向に角度調整して放水目標を定めている。

【0004】

【発明が解決しようとする課題】このような運搬車等による移動式の方法では、収納箱や銃座支持板や固定枠等

がそれぞれ別個に設けられているので、それぞれを別個に運搬しなければならない、多くの人員が必要である。また、装置全体が大きくなって重量も重くなるので運搬しずらく、かつ、設置まで多くの時間がかかり、消火作業に移るまでの時間が長いものであった。さらに、装置全体が大きいため消防車に多数備え付けることもできないという問題があった。また、消火ノズルを取り付けた後、このノズルの角度調整が上下方向にしかできないので、放水目標が水平面内でずれているときは、そのつど、装置全体を目標の方向に移動させなければならない、作業が面倒であり、放水目標に対して柔軟に対応できないという問題もあった。

【0005】本発明の目的は、コンパクト化され、消防車に多数備え付けることができるとともに、短時間で消火作業に移れ、かつ、放水目標に対して柔軟に対応できる消火用ホースカーを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明に係る消火用ホースカーは、放水用の消火ノズルを備えるとともに消火栓に消火用ホースを介して接続され、この消火栓から供給される消火用水で消火を行う消火用ホースカーであって、内部が前記消火用ホースを収納する収納空間となった本体と、この本体に取り付けられた走行用の車輪と、前記本体に設けられこの本体に対して垂直な回転軸を介して回転可能となった回転体と、この回転体に前記回転軸と直交する支持軸を介して揺動可能に設けられ、一端は前記消火用ホースに接続手段を介して接続されるとともに、他端は前記消火ノズルと接続された放水銃座と、前記本体に設けられ前記回転体の回転角度を調整する回転角度調整手段と、前記回転体に設けられ前記放水銃座の揺動角度を調整する揺動角度調整手段とを備えて構成されていることを特徴とするものである。

【0007】以上において、前記回転体の回転角度は例えば2段階、3段階等、何段階に調整するものであってもよく、また、前記放水銃座の揺動角度も例えば2段階、3段階等、何段階に調整するものであってもよい。さらに、前記放水銃座および消火用ホースは、1本設けても2本設けてもよい。また、消火用ホースカーの前記本体は、市販のものを使用してもよい。

【0008】このような消火用ホースカーでは、本体に放水銃座、消火ノズル、消火用ホース等が設けられ、さらに、車輪が取り付けられてコンパクトに構成されているので、消防車に多数設置できる。また、本体には車輪を設けてあるので移動が容易となり、消火用ホースカーの運搬を一人で簡単にし、さらに、所定位置に設置した後消火用ホースを放水銃座に接続すれば放水可能となるので、一人であつ短時間で消火準備ができ、消火作業に移るまでの時間を短くできる。また、放水銃座を、水平面内で角度調整自在、および上下方向の揺動角度調整自在とできるので、本体の位置を変えることなく、放水

銃座に接続された消火ノズルの向きを容易に変えることができ、放水目標の範囲の拡大を図れ、かつ、放水目標に対して柔軟に対応できる。

【0009】本発明の消火用ホースカーにおいて、放水銃座および消火ノズルをそれぞれ2本ずつ設け、接続手段を、消火用ホースからの消火用水を放水銃座に分配する分配器を含んで構成してもよい。

【0010】このような消火用ホースカーでは、2本の放水銃座および消火ノズルが設けられており、同時に2本の消火ノズルでの放水が可能なので、効率がよくなり消火作業がはかどる。

【0011】

【発明の実施の形態】以下に本発明の一実施形態を図面に基づいて説明する。図1～3等に示すように、本実施形態の消火用ホースカー1は、例えば平鋼等で枠組みされた枠体の内面に、パンチングメタル11等を張り付けて直方体の箱状に形成された本体2を備えている。以下、本体2を、図1の状態のとき（運搬時）の上面を上面部2A、下面を下面部2B、図中右方の側面を第1側面2C、図中左方の側面を第2側面2D、図中手前側の側面を第3側面2E、図中向こう側の側面を第4側面2Fとして説明する。また、上面部2Aと下面部2Bとの間隔を本体の厚さ、第3側面2Eと第4側面2Fとの間隔を本体の幅、第1側面2Cと第2側面2Dとの間隔を本体の長さとし、第1側面2C側を前方、第2側面2D側を後方とする。そして、この消火用ホースカー1では、第2側面2Dが開閉可能な扉となっている。

【0012】また、図1に示すように、このような本体2の内部空間は、消火用ホース15の収納空間Sとなっており、ホース15が折り畳まれて引出し可能に収納されている。

【0013】本体2の下面2Bには、図2に示すように、第3側面2Eと第4側面2Fとの外側に突出したブラケット13を介して一對の車輪3が設けられている。また、第1側面2Cには、図1に示すように、本体2の枠体10に前方に突出した支持棒4を介して把手5が取り付けられている。この把手5は、本体2の幅寸法と同程度の寸法に形成され、かつ、第1側面2Cとほぼ平行となっている。また、本体2の下面2Bにおいて前方側先端で幅方向両端には、例えば丸棒をほぼU字状に折り曲げて形成されたスタンド6が取り付けられている。

【0014】本体2の下面2Bの幅方向中央には、本体2の長手方向に沿って開閉レバー16が設けられ、この開閉レバー16は、前記扉となっている第2側面2Dを本体2に止着している図示しないピンと連結されており、レバー16を水平方向に動かすことにより、ピンと本体2との止着を解除できるようになっている。

【0015】また、ブラケット13の後方には、第2側面2Dから外側に突出した鍵型の係合部材18が取り付けられている。この係合部材18は、図示しないが消防

車の後部ステップ等に設けられているU部に引っ掛けられるようになっており、これにより、消火用ホースカー1は消防車に取り付けられる。

【0016】本体2における第3側面2Eには、図2、3に示すように、消火ノズル9を着脱自在に取り付けるための台プレート7と、2個のクリップ部材8、8が取り付けられている。すなわち、第3側面2Eの後方端部に、この側面2Eから外側に突出した上記台プレート7が取り付けられ、また、この台プレート7から前方側に離れた位置に上記2個のクリップ部材8、8が取り付けられている。台プレート7には、消火ノズル9の孔部と係合する、例えば円板状の突起部材19が取り付けられている。一方、クリップ部材8、8は、例えば、ばね材で断面はほぼコ字状に形成され、対向する辺の中央近傍には、互いに外側に湾曲したクリップ部8Aが形成されている。そして、このクリップ部8Aで、消火ノズル9の先端側を挟持できるようになっている。

【0017】なお、消火用ホースカー1は消防車の後部ステップ等に載せられるが、後部ステップのスペースの関係で、消火ノズル9を同一面に取り付けられない方がよいことがある。そこで、図3に仮想線で示すように、第4側面2Fに設けてもよい。つまり、勝手違いの消火用ホースカー1を作っておくと設置上便利となる。

【0018】各消火ノズル9は、一般に使用される放水用あるいは泡放射用のものが使用され、これらの消火ノズル9は、それぞれの一端を台プレート7の前記突起部材19に係合させるとともに、他端側を2個のクリップ部材8、8のクリップ部8Aに差し込むことにより湾曲したクリップ部で挟持され、これにより、消火ノズル9は、本体1に容易に着脱できるようになっている。

【0019】図3に示すように、本体2の下面部2Bには、本体2の幅方向中心線を挟んで対象位置に、2本の放水銃座20、20がそれぞれ回転体である回転テーブル21を介して設けられ、さらに、各放水銃座20と消火用ホース15とを接続する接続手段25が設けられている。各回転テーブル21は、前記車輪3より後方側に配置されている。そして、これらの回転テーブル21、21が設けられる部位には、所定の幅で鉄板23等が張られている。回転テーブル21は、図4、5に示すように、円板状のテーブル本体27を備え、このテーブル本体27は、本体2の鉄板23に水平に回転軸28を介して回転可能に取り付けられている。

【0020】テーブル本体27の上面一部には、本体2の外周に沿って縁状に立ち上がった角度位置決め部29が形成されており、この角度位置決め部29は、例えば90°程度の中心角を有する円弧状となっている。また、角度位置決め部29には、図4に示すように、角度 θ （例えば20°ずつ）°で水平な3つの位置決め孔、すなわち、第1の位置決め孔29A、第2の位置決め孔29B、第3の位置決め孔29Cが形成されている。そ

して、各位置決め孔29A、29B、29Cに、回転角度調整手段30の位置決めストッパ31が、それぞれ出沒自在に係合可能となっており、これにより、テーブル本体27は水平面内で3つの位置に位置決めされるようになっている。

【0021】回転角度調整手段30は、図3に示すように、2つのテーブル本体27の間にそれぞれのテーブル本体27に対応して配置され、図5に示すように、鉄板23上に取付台32を介して取り付けられる水平な筒体33を備えている。この筒体33の内部には、筒体33内を揺動可能となった前記位置決めストッパ31が設けられ、この位置決めストッパ31は、筒体33内に収納されたコイルばね34により、常時テーブル本体27側に付勢されている。また、位置決めストッパ31には、上方に突出するハンドル35が取り付けられ、ハンドル35は、筒体33の外周かつ上部にその長手方向に沿って形成された長穴33Aにガイドされるようになっている。

【0022】従って、ハンドル35を握んで筒体33の後端側に引っ張れば、位置決めストッパ31がコイルばね34の付勢力に抗して筒体33内に引き込まれ、ハンドル35を放せば、コイルばね34の付勢力により、位置決めストッパ31が前進するようになっている。そして、この位置決めストッパ31が、角度位置決め部29の3つの各位置決め孔29A、29B、29Cのいずれかに嵌合するようになっている。

【0023】ここにおいて、前記取付台32、筒体33、位置決めストッパ31、コイルばね34および前記テーブル本体27の角度位置決め部29を含んで、前記回転角度調整手段30が構成されている。

【0024】テーブル本体27の上面には、それぞれの放水銃座20を支持するためのブラケット37が設けられている。このブラケット37は、図4、5に示すように、対向する2枚の側面37A、37Bを有する断面コ字状となっており、この2枚の側面37A、37Bが、前記角度位置決め部29の第1の位置決め孔29Aとテーブル本体27の中心とを結んだ線に対して平行に配置され、テーブル本体27の下面から差し込まれた取り付けボルト38によって取り付けられている。また、2枚の側面37A、37Bの前記角度位置決め部29と反対側には、斜め下方に突出した突出部37Cが形成され、この突出部37C同士は斜め部材39で連結されている。

【0025】ここにおいて、テーブル本体27、角度位置決め部29、ブラケット37および取り付けボルト38を含んで、前記回転テーブル21が構成されている。

【0026】放水銃座20は、消防法等の規約に従って製作された一般的なものであり、図5に示すようにゆるやかな角度で曲げられており、内部には図示しないが外形形状に沿った貫通穴が明けられ、消火用水が流通可能

となっている。そして、一端部20Aは前記接続手段25と接続され、他端部20Bには、前記消火ノズル9が着脱可能に接続されるようになっている。そして、このような放水銃座20は、前記ブラケット37の2枚の側面部37A、37Bの外側から差し込まれた支持ボルト40により、回動可能に支持されている。

【0027】放水銃座20の曲がり部近傍には、外形に沿った突出部41が形成されており、この突出部41に、所定の角度 α° で3つの凹部、すなわち、第1の凹部41A、第2の凹部41B、第3の凹部41Cが形成されている。そして、各凹部41A、41B、41Cに、揺動角度調整手段45の位置決めピン46がそれぞれ係合することにより、放水銃座20は上下方向に3つの位置で位置決めされるようになっている。

【0028】揺動角度調整手段45は、前記斜め部材39に取り付けられた筒状のケース47を備え、このケース47内には棒部材48が揺動自在に収められており、棒部材48の先端には、ケース47の外側に突出した前記位置決めピン46が設けられている。これらの棒部材48、位置決めピン46の軸線は、放水銃座20を支持する支持ボルト40同士を結ぶ線に向かっており、かつ、位置決めピン46の先端は、前記第1～3の凹部41A、41B、41Cに出沒自在となっている。また、ケース47内には、棒部材48に巻き付けられ、この棒部材48を常に放水銃座20側に付勢するコイルばね49が設けられ、棒部材48の後端には位置決めピン46を作動させるためのハンドル50が取り付けられている。

【0029】このため、ハンドル50を手前に引っ張り、放水銃座20を回動して所定の凹部41A等の位置で、ハンドル50から手を放せば、コイルばね49の付勢力により位置決めピン46が前進してその凹部41A等に差し込まれ、放水銃座20が上下方向の所定の角度に位置決めされることとなる。ここにおいて、前記ケース47、棒部材48、位置決めピン46、コイルばね49、ハンドル50および第1～3の凹部41A、41B、41Cを含んで、前記揺動角度調整手段45が構成されている。

【0030】図3に示すように、前記接続手段25は、一端部が消化用ホース15に接続される前記分配器22を備えている。この分配器22の他端部は二股に分かれており、内部には通路が形成され、この通路内を消化用の水が流通可能となっている。そして、それぞれの分岐部先端が接続ホース56、56を介して、前記放水銃座20と接続されている。また、分配器22の一端部から二股に分かれる部位には、水の吐出圧を調整する可変絞り弁57が設けられている。ここにおいて、前記分配器22と接続ホース56、56とを含んで、前記接続手段25が構成されている。

【0031】前記消火用ホース15は、一般に使用され

る放水用あるいは泡放射用のものが使用され、図示しないが、一端部に消火栓側と接続されるカブラを備え、他端側には分配器22と接続されるカブラを備えており、通常時は図1に示すように、ホースカー1の本体2の内部空間、すなわち前記収納空間S内に収納されている。

【0032】次に、以上のような消火用ホースカー1の使用方法を説明する。まず、消火用ホースカー1の本体2内部に消火用ホース15を折り畳む等して収納させておくとともに、この消火用ホースカー1を、予め消防車の両サイドステップや後部ステップに複数個設置しておく。

【0033】火災の発生で消防車が出動し、消防車が火災現場に到着すると、消火にあたる消防員は、主要道路沿いに設けられた消火栓の内、火災現場に最も近いものに消防車の接続部を接続し、その消火栓からタンクに給水を行う。次に、消防員は、それぞれの消火用ホースカー1を消防車から降ろすとともに、本体2の第2側面2Dを開いて、消火用ホース15と消防車の消火栓とを接続し、把手5を手を持って引っ張り、あるいは押して、その消火用ホースカー1を火災現場まで移動する。

【0034】消防員が消火用ホースカー1を火災現場近傍まで引っ張って移動させると、消火用ホース15は順次消火用ホースカー1の本体2内から引き出される。消火用ホース15を所定の位置まで移動させた後、消防員は、ホースカー1を引っ繰り返し、つまり、上面2Aを接地させ、次いで、2本の消火ノズル9を本体2の第4側面2Fから取り外すとともに（あるホースカー1では第3側面2Eから）、それぞれ放水銃座20と接続させる。一方で、消火用ホース15の他端と分配器22とを接続する。

【0035】そして、回転角度調整手段30の位置決めストッパ31を、ばね付勢に抗して後退させることにより回転テーブル21の角度位置決め部29から抜き出し、次いで、消火ノズル9の放水口が火災の目標の位置に向くようにテーブル本体27を回転させた後、ストッパ31を角度位置決め部29の第1～3のいずれかの位置決め孔29A、29B、29Cに差し込んでその位置に固定する。

【0036】引き続き、放水銃座20と揺動角度調整手段45の位置決めピン46との係合を外すとともに、消火ノズル9の放水口が火災の目標の位置に丁度よい角度で向くように、ノズル9の上下方向の角度を決めた後、位置決めピン46を放水銃座20の第1～3のいずれかの位置決め孔29A、29B、29Cに差し込んでその位置に固定する。そして、放水を開始し消火作業を行う。

【0037】消火位置の変化に対しては、前述の操作により回転テーブル21の水平面内の角度、および放水銃座20の上下方向の角度を調整し、随時消火位置の変化に合わせて対処する。

【0038】消火作業の終了後は、前述と逆の作業により、消火ノズル9を放水銃座20から取り外して本体2の第4側面2Fまたは第3側面2Eに取り付け、本体2を引っ繰り返して初期の姿勢に戻した後、消火用ホースカー1を消防車の位置に引っ張って行き、そこで消火用ホース15を分配器22から取り外すとともに、折り畳み、消火用ホースカー1の内部に収納し、消火用ホースカー1を消防車に装着する。

【0039】前述のような本実施形態によれば、次のような効果がある。

①消火ノズル9は、現場で放水銃座20に接続されるように予め本体2の側面2Fに着脱可能に取り付けられ、消火用ホース15は本体2内部に予め折り畳まれて収納されているので、消火用ホースカー1全体がコンパクトになっている。従って、消防車に多くの消火用ホースカー1を積載することができ、また、これら多くのホースカー1を使用することができるので、消火を迅速に行うことができる。

【0040】②消火用ホースカー1には2個の放水銃座20が設けられ、2本の消火ノズル9を取り付けることができるので、これらのノズル9を同時に使用して消火作業にあたることができ、効率のよい消火が行える。

【0041】③消火ノズル9は、分配器22の可変絞り弁57の開閉により1本ずつの使用も可能なので、例えば消火作業が進みほぼ鎮火状態のとき等、必ずしも2本の消火ノズル9を使用しなくてもよい場合、1本のノズル9を使用することができ、状況に応じて使い分けでき、これにより、柔軟な使用形態が可能となる。

【0042】④消火ノズル9は、その取り付け角度を水平面内および上下方向に、それぞれ3段階で自在に調整できるので、消火用ホースカー1を所定の位置に一端設置して消火作業に移った後、消火位置に変動があっても、消火用ホースカー1全体を移動することなく、ノズル9の向きを、すばやく火災の発生場所に対して最適の放水姿勢をとることができ、放水目標に対して柔軟に対応できるとともに、放水目標の拡大が図れ、効率のよい消火活動が行える。

【0043】⑤放水銃座20および分配器22は、消火用ホースカー1の下面2Bに取り付けられており、移動時等は地面側に位置しているので、例えば移動中に障害物等が落下しても、放水銃座20等にはぶつかることはなく、確実に保護されている。従って、常に、支障のない状態で放水銃座20等に消火ノズル9を接続でき、かつ、迅速に消火活動に移れる。

【0044】⑥消火用ホースカー1を使用する際は、このホースカー1を引っ繰り返して本体2の上面2A全面を接地させるので、接地面積が大きくなり、消火ノズル9の放水時でも消火用ホースカー1が大きく動いたりすることはなく、従って、放水目標から消火ノズル9が外れることもなく、これにより、安定した消火活動が行え

る。

【0045】㊦消火ノズル9は、予め本体2の側面2Fに着脱可能に取り付けられ、消火用ホース15は本体2内部に予め折り畳まれて収納され、放水銃座20も消火用ホースカー1の本体2に取り付けられているので、消防員は、消火用ホースカー1を消防車から降ろした後、消火用ホース15と消防車の消防栓とを接続した後、把手5を掴んで火災現場の所定の位置まで移動させ、その位置で、それぞれを接合させればよく、一人での作業が可能となり、少ない人数での消火作業が可能となった。

【0046】㊧消火用ホースカー1の本体2は、平鋼等で形成された枠体10にパンチングメタル11等を張りつけて形成されているので、消火作業終了後に消火用ホース15を収納する際、このホース15に残っている水が吐き出されても、この水は、容易に外部に排出され、本体2内に溜まることはない。従って、消火用ホースカー1を即座に消防車に装着することができる。

【0047】なお、本発明は前述の実施形態に限定されるものではなく、次に示すような変形形態等を含むものである。すなわち、前記実施形態では、消火用ホースカー1に2本の放水銃座20を介して2本の消火ノズル9を取り付けるものとしたが、これに限らず、1本の放水銃座20および1本の消火ノズル9を取り付けるものとしてもよい。しかし、前記実施形態のように2本設けた方が、効率のよい消火が可能となる。

【0048】また、前記実施形態では、消火用ホースカー1の下面2Bに放水銃座20等を取り付けてあるが、これに限らず、例えば上面2Aに放水銃座20等を取り付けてもよい。この場合、移動したままの状態で使用することができるので、引っ繰り返したりする作業が不要となり、消火作業にはいるまでの時間を短縮できるという効果がある。

【0049】さらに、前記実施例では消火用ホースカーを消防車に積載しておいて、火災発生現場でそこから降ろしてホースを延ばして使用しているが、これに限らず、例えば消火栓の近傍に常時設置しておいて使用してもよい。このようにすれば、このホースカーのホースが延びる範囲の火災に対して、消防車の出動に先立ち消火作業を行えるので、初期消火活動が可能になるという効

果がある。

【0050】

【発明の効果】以上に説明したように、本発明の消火用ホースカーによれば、本体に放水銃座、消火ノズル、消火用ホース等が設けられ、さらに、車輪が取り付けられてコンパクトに構成されているので、消防車に多数設置できる。また、本体には車輪を設けてあるので一人での移動が容易となり、消火用ホース等の運搬を簡単に行え、所定位置に設置した後消火用ホースを放水銃座に接続すれば放水可能となるので、一人、かつ、短時間で消火作業に移れる。さらに、放水銃座を、水平面内で角度調整自在、および上下方向の揺動角度調整自在とできるので、本体を移動させることなく、放水銃座に接続された消火ノズルの向きを容易に変えることができ、放水目標に対して柔軟に対応でき、放水目標の範囲を拡大できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施形態に係る消火用ホースカーを示す全体側面図である。

【図2】本実施形態に係る消火用ホースカーを示す全体正面図である。

【図3】本実施形態に係る消火用ホースカーを示す全体裏面図である。

【図4】本実施形態の要部を示す平面図である。

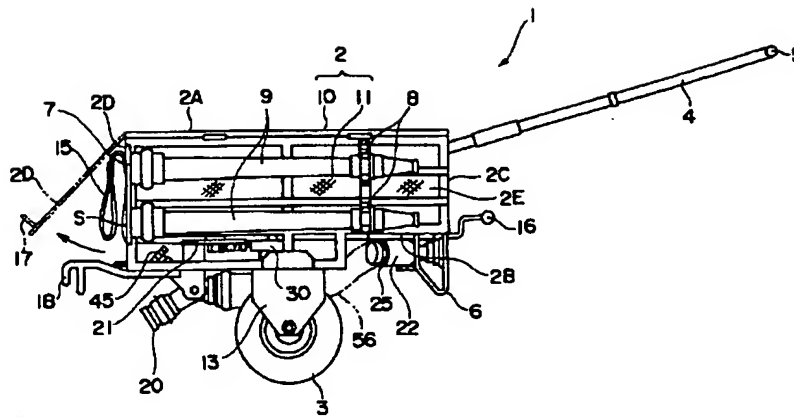
【図5】本実施形態の要部を示す一部断面の側面図である。

【図6】本実施形態の消火用ホースカーの使用状態を示す全体斜視図である。

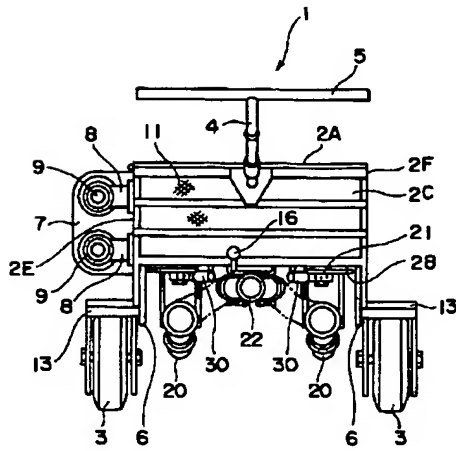
【符号の説明】

- 1 消火用ホースカー
- 2 本体
- 9 消火ノズル
- 15 消火用ホース
- 20 放水銃座
- 21 回転体である回転テーブル
- 25 接続手段
- 30 回転角度調整手段
- 45 揺動角度調整手段
- S 収納空間

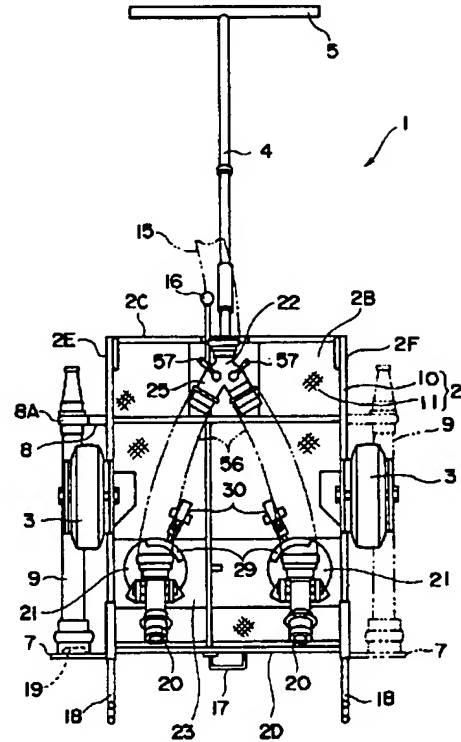
【図1】



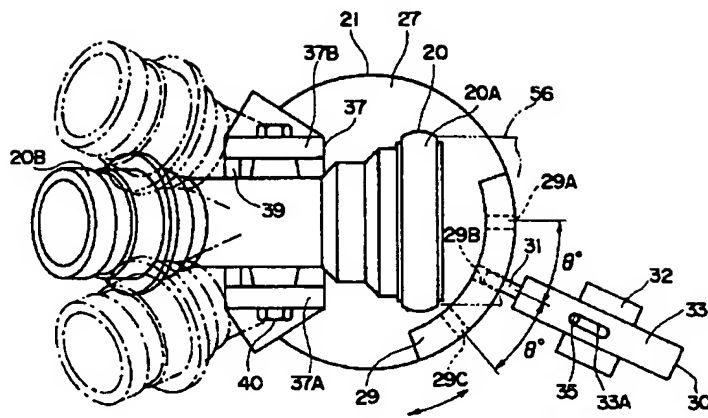
【図2】



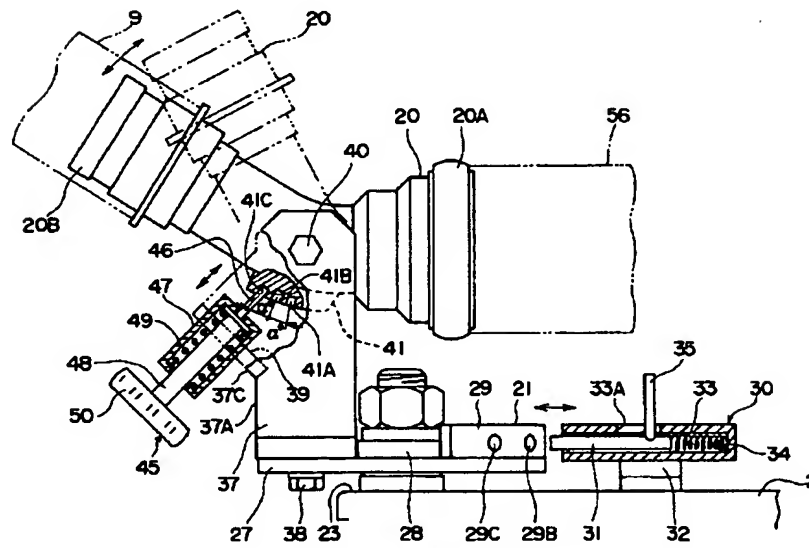
【図3】



【図4】



【図5】



【図6】

